西方音楽館友の会2023年収支報告

コンサート収入　1,047,500 円　コンサート支出　2,671,125 円　収入－支出＝－1,623,625 円

コンサート以外の収入
・会費
　Ａ 31 名＝124,000 円　Ｂ 40 名＝400,000 円　Ｃ４名＝60,000 円　Ｄ４名＝80,000 円
　合計 79 名　664,000 円
・ご寄付　合計 126,800 円
・うどん・カレンダー販売益金　45,378 円
収入合計 836,178 円

総収入合計　1,883,678 円

コンサート以外の支出
・会報製作・送付　28 号、29 号　　89,497 円
・備品・手数料　　29,315 円
支出合計　118,812 円

総支出合計　2,789,937 円
総収入－総支出＝－906,259 円
（財団より 640,000 円援助＋西方音楽館友の会資金より 266,259 円補填）

2023 年 1 月～ 12 月 西方音楽館基金（一般財団法人西方芸術振興財団預かり）へのご寄付　合計　1,110,000 円

西方音楽館友の会主催 2024 年のコンサート

●1 月 21 日（日）15:30 ～
西方音楽館友の会第 113 回コンサート バッハ＝躍るいのち
武久 源造：ジルバーマンピアノ　岩佐 樹里：バロック・ダンス

●2 月 25 日（日）15:30 ～
西方音楽館友の会第 114 回コンサート　ベートーヴェン　チェロとピアノのための初期作品　vol.2
髙橋弘治：チェロ　荒川智美：フォルテピアノ

●第 9 回西方音楽祭は、中面をご覧ください。

●5 月 12 日（日）15:30 ～
西方音楽館友の会第 120 回コンサート　渡邊順生 チェンバロリサイタル～若き日のバッハ～
横田誠三製作　銘器ラブレッシュチェンバロ使用

●6 月 16 日（日）15:30 ～
西方音楽館友の会第 121 回コンサート　国枝俊太郎「笛の旅」
チェンバロ：岡田龍之介

●8 月 3 日（土）15:30 ～
西方音楽館友の会第 122 回コンサート久元祐子　ベートーヴェン ピアノソナタ全曲演奏会シリーズ第 2 回
～銘器ワルターモデル・フォルテピアノで奏でるベートーヴェン～

●9 月 1 日（日）15:30 ～
西方音楽館友の会第 123 回コンサートさかはし矢波 フルートリサイタル
～ドップラーの作品を集めて～　福田素子：ピアノ

●9 月 22 日（日）15:30 ～
西方音楽館友の会第 124 回コンサート
ジルバーマンピアノを用いて J.S. バッハのヴァイオリンソナタ
武久源蔵：ジルバーマンピアノ　谿美穂子：ヴァイオリン

●10 月 20 日（日）15:30 ～
西方音楽館友の会第 125 回コンサート
山村多恵子：オカリナ　岩崎良子：ピアノ

●11 月 10 日（日）15:30 ～
西方音楽館友の会第 126 回コンサート 西野晟一朗クラヴィコードリサイタル
（限定30席）

●12 月　日程未定
古楽アンサンブル「ムジカ・レセルヴァータ」コンサート
国枝俊太郎：フラウト・トラヴェルソ＆リコーダー
小野萬里：バロックヴァイオリン　高橋弘治：チェロ　岡田龍之介：チェンバロ

◆**親子のための音楽会**
2024年1月8日、2月12日、3月23日、5月3日、8月11日（クラリネットの演奏あり）、11月4日

こ・ぼ・れ・話

モラルが低下している
現代にあって、
AI が悪用されないことを
願って止まないが、
心を持つ人間の脳は、
それを阻止する力も
備えているはずである。

中新井紀子

西方音楽館友の会会員募集

会員を倍増し、赤字を無くしたく、ご協力よろしくお願いいたします!!!

Ａ 31名＝124,000円　Ｂ 40名＝400,000円　Ｃ 4名＝60,000円　Ｄ 4名＝80,000円（2023年1月～12月までご納入の方）
合計79名　664,000円
ご寄付　合計126,800円

西方音楽館友の会運営委員：中新井紀子（西方音楽館館長）、岡田龍之介（チェンバロ奏者）、小川和隆（ギタリスト）、木下大輔（作曲家）
高田良久（医師、下野楽遊代表）、中新井諒子（国立音大卒、クラリネット）、永田美穂（音楽学）、山村多恵子（オカリナ奏者）

2024. 1.　**木洩れ陽の窓から**　No. 30

西方音楽館友の会会報

編集・発行人　中新井紀子

西方音楽館
322-0601
322-0601 栃木県栃木市西方町金崎342-1　TEL 0282-92-2815　Web http://wmusic.jp

AI と人間の脳

中新井紀子

AI の進歩は目覚ましく、人間の脳は負けてしまうのでは？との脅威がある。AI が取り込める膨大な情報量、およびその集計、統計能力は、人間の能力を遥かに超えている。しかしながらその情報は、ある目的、あるテーマに限られたものである。

人間には、顕在記憶（意識的に思い出せる記憶）と潜在記憶（思い出せないが、これまでのすべての体験の記憶）があるとのこと。ならば潜在記憶には、人間が生まれてからのすべての情報が入っているはず。また、胎児のときから、次第に人間らしい体に成長する過程で、地球上に生命が誕生し、アメーバのような形態から、多数の細胞からなる生物に進化し、魚類、両生類、哺乳類、そして人類へと進化していくすべての情報が胎児の内に秘められおり、それは、大人になった人間の体にも刻印されているはずである。とすると、この進化の膨大な記憶を内に含む人間の脳は、はたして AI に劣っていると言えるのだろうか？何億年分、何十億年分の記憶を体内に宿している人間の情報量が、はたして AI に劣っているのであろうか？

音楽に於いては、例えば、J.S. バッハが経験し、学んだすべての情報を AI に入力して作曲させたら、J.S. バッハ以前までの様式、形式で、ある程度面白い音楽を作り出すことは出来るかもしれない。しかし、その情報から J.S. バッハの音楽を創り出すことは出来ない。人間には、与えられた情報から飛躍して、新たなものを創り出す力がある。J.S. バッハの音楽を創り出せるのは、J.S. バッハ本人のみである。

「間違える脳」（櫻井芳雄著、岩波新書）によれば、「人間の脳の情報伝達は、ニューロンが発火し、シナプスを介して、次のシナプスに伝達するのであるが、伝わる確率は低く、低確率で不確実な信号伝達ゆえ、間違いを犯すように出来ている。スポーツ選手や演奏家など、特殊な訓練を重ねると、脳のその部分だけ信号を受け渡す部分が太くなったり、面積が広くなったりして、信号を受けやすい形状に変化し、間違いを犯しにくくなる。しかし、そうでない部分は、間違いを犯すように出来ていて、このことが非常に大切で、間違いを犯すような脳だから、これまでに存在しなかった新たな発明、創作へと飛躍が出来る。脳の損傷により、しゃべれなくなったり、麻痺したりすることもあるが、脳のある部位が損傷すると、別の部位がその代わりとなることもある。例えば、視覚野が損傷すると、聴覚野がその役目を担うことがある。脳は、非常に柔軟に出来ており、総合的に働いており、ある日の脳の機能地図は、次の日は、もう異なっているほどである。脳が心を生んでいる。しかし逆に、心が脳の活動を制御できる。制御する側である心は、同じ脳から生じているにもかかわらず、制御される側の脳活動からは独立して働き得る。機械でこのような機能を備えたものは無い。例えば、偽薬、偽手術でも、本当の薬を飲んだ、本当に手術を受けた、と思うと、かなりの確率で効いてしまう。また、AI はデジタルであるが、人間の脳はアナログに出来ている。」（中新井編集）

AI と異なり、間違いを犯し、機能が柔軟に変化し、心により制御され、アナログに出来ている脳。一見劣っているように見えるこの特性こそが、未曾有の可能性を秘めているのではないだろうか。

音楽に戻るなら、生の演奏には、デジタル録音では取り込むことのできない、微細な情報が多く含まれている。そして音楽は、心や感受性を養う。脳を制御することのできる心を養い、アナログの極致ともいえる生演奏を浴びることは、脳に適い、脳に有効に働くはずである。